

第2回：植林に用いられる樹種

（1）都市近郊緑化事業

都市近郊緑化事業に利用されている主要樹種は、以下のように分類される。

主要な街路樹

- ナツメヤシ（*Phoenix dactylifera*）
- インドセンダン（*Melia azadirachta*）
- ビルマネムノキ（*Albizia lebbek*）
- ユーカリ類（*Eucalyptus* spp.）
- フィカス類（*Ficus religiosa*, *F. benghalensis*）

垣根用として利用される樹種

- イボタクサギ（*Clerodendron inerme*）
- タイワンニンジンボク（*Vitex negundo*）
- ブーゲンビリア（*Bougainvillea glabra*）
- キバナクサネム（*Sesbania aegyptiaca*）

中央分離帯に多く用いられる樹種

- ハイビスカス（*Hibiscus rosa-sinensis*）
- キバナテコマ（*Tecoma stans*）
- ポインシアナ（*Euphorbia pulcherrima*）

被覆用として利用される植物

- ギョウギシバ（*Cynodon dactylon*）
- ゲンバイヒルガオ（*Ipomea pes-caprae* R.）

耐塩樹種

- アカシア系樹種（*Acacia* spp.）
- サルバドーラ（*Salvadora persica*）
- プロソピス系樹種（*Prosopis* spp.）

（注：AL AIN 園芸部からの聞き取り）

（2）大規模植林（造林）地

大規模植林事業で用いられる植林樹種としては、1970年代はユーカリ類（*Eucalyptus* spp.）、アカシア類（*Acacia* spp.）、モクマオウの仲間（*Casuarina* spp.）やメスキート（*Prosopis juliflora*）等の外来種が主体であった。その後、ガーフ（*Prosopis cineraria*）、サマー（*Acacia tortilis*）、シダー（*Zizyphus spina-christi*）、サラム（*Acacia ehrenbergiana*）、ガラト（*Acacia arabica*）等の耐乾性や耐塩性が高く水分要求度のより少ない在来種が使用されるようになった。現在では、植林樹種の90%が在来種になっている。また、将来高木とはならないものの飼料樹種としてアルタ（*Calligonum comosum*）、マルク（*Leptadenia pyrotechnica*）などの在来種や外来種のアトリプレックス（*Atriplex* spp.）が1977年から主林木の植林列間に導入されかなりの成功をおさめている。灌漑水の塩類濃度が高い地域では、耐塩性の強いアラク（*Salvadora persica*）が特に注目されており、植栽面積が急増している。その他、リムス（*Hamada elegans*）、ハルム（*Zygophyllum* spp.）等の野生種が植林地内で自然発生するようになっている。なお、現在UAEで使用されている主要な植林樹種は、在来種を中心に以下に示す6種類となっている。Prosopis cineraria（Ghaff；ガーフ）、Acacia tortilis（Samar；サマー）、Zizyphus spina-christi（Sidder；シダー）、Salvadora persica（Arak；アラク）、Leptadenia pyrotechnica（Murkh；マルク）、Acacia ehrenbergiana（Salam；サラーム）。



AL AIN - ABU DHABI 間の植林



Salvadora persica の植林地